

第3回 王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定検討会

平成28年12月19日

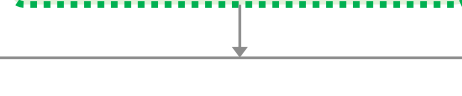
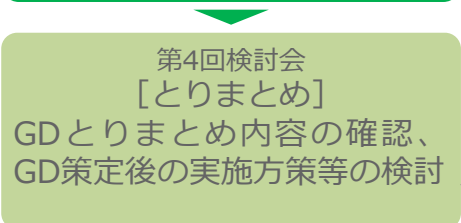
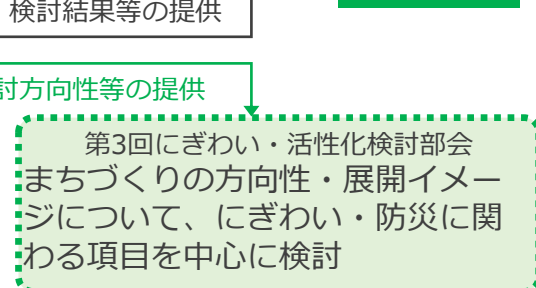
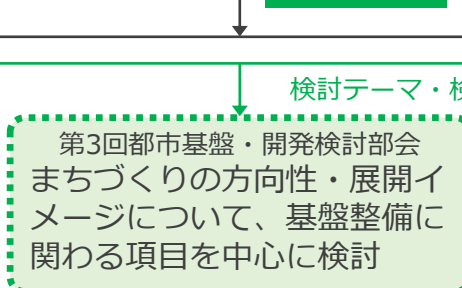
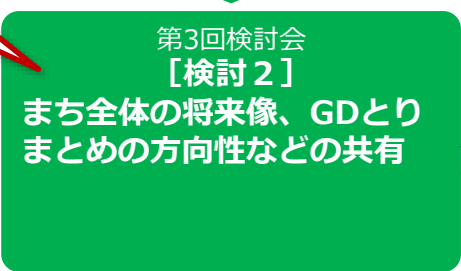
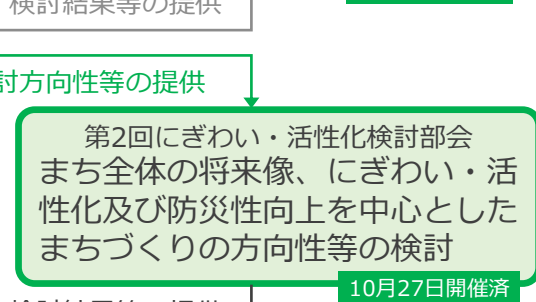
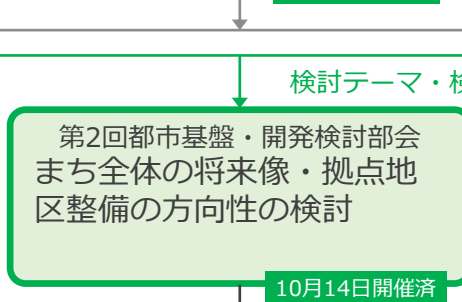
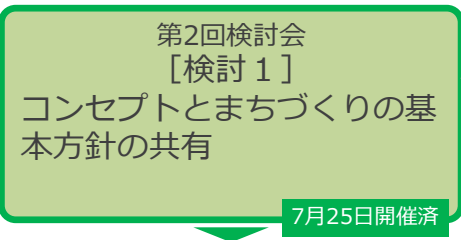
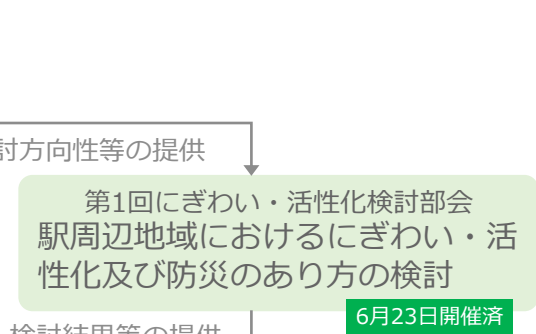
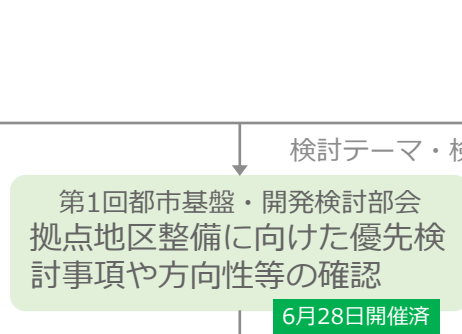
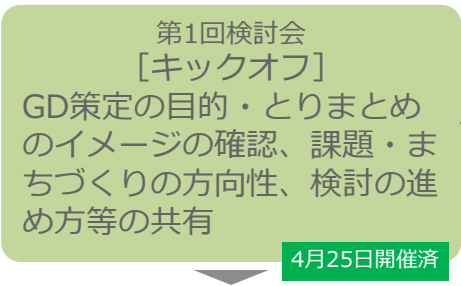
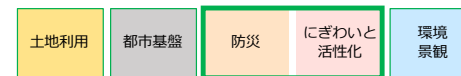
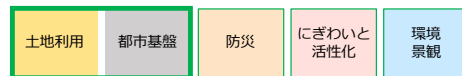
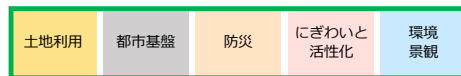


本日の検討テーマ

検討会

都市基盤・開発検討部会

にぎわい・活性化検討部会



第2回検討会、検討部会での検討内容、いただいたご意見などを踏まえた検討

※下記検討テーマは現時点での想定であり、今後変更する可能性があります。

第2回検討会 (7/25) 資料を一部修正

本日の資料構成

1. 第2回検討会（7/25）の振り返り

検討内容

主な意見



2. 第2回検討部会の報告

都市基盤・開発検討部会（10/14）

にぎわい・活性化検討部会（10/27）

検討内容

+

+

委員からの主な意見

委員からの主な意見

※本日の検討事項

3. まちづくりコンセプト

※本日概ね方向性の合意を得たい内容

4. グランドデザインとりまとめの方向性

※本日概ね方向性の合意を得たい内容

5. グランドデザイン策定までのスケジュール

1. 第2回検討会（7/25）の振り返り

1-1 検討内容

1-2 委員からの主な意見

第2回検討会（7/25開催）の検討テーマ：コンセプトとまちづくりの基本方針の共有

コンセプトとまちづくりの基本方針の検討

広域的な視点からの現況整理



コンセプト+基本方針（案）の提示



拠点地区整備の検討の方向性の共有

現況・課題の整理



検討の方向性の提示



にぎわい・活性化および防災のあり方の共有

まちへの関わり方ごとの基本方針などの共有



防災に関わる基本的な方向性の共有



検討の進め方について

- 一度に全部ではなく、新庁舎のスケジュールにあわせた駅前空間の活性化を含めた駅そのものの改善など、きっかけを掴みながら議論を進めていくのが良いのではないか。
- 空間的にも時間的にも仕切りを設け、それぞれの論点を明確にする必要がある。例えば、時間的には区庁舎整備までのまちづくりと、それ以降の整備とを分ける。空間的には、JR駅や区庁舎などの周辺ごとに仕切るなど行わないと議論が拡散してしまうのではないか。
- 庁舎移転をベースにするにしても、周辺の整備への展開を阻害しないような道路計画としておくなど、全体の整合がとられたものにしていただきたい。
- 開発者にとってのメリットがないと開発は成功しないため、採算性の議論も重要ではないか。

検討の基礎となる情報の整理について

- 王子の駅勢圏の人口は重要である。それをベースに王子のまちづくりの姿を考える必要がある。
- バスのほか、歩行者や自転車、バスなどの通行量、さらには土地利用などの実態を踏まえた上で、将来像が決まってくるのではないか。
- 王子の特性がまだ資料のなかではっきりしない。飛鳥山や自然、歴史文化は何か。今あるものを将来どう活かすかなど、明らかにしたい。他区との連携をしたら王子は何を担ってどこを伸ばすかなどを明らかにする必要がある。
- この地区の強みを具体的に整理し、潜在的な王子駅の利用者などを、コンセプトや基本方針の考え方にも取り入れていきたい。

グランドデザインの意義について

- 庁舎移転を契機に検討が始まったが、個別の事業を独立させて稼働させるのではなく、その上位としての全体計画、都市基盤の計画、民間再開発等を誘導する戦略や手法について様々意見をいただいている。少なくとも今年度は、次年度以降にそれらを詳しく議論できる道筋をつけることが重要ではないか。

王子が目指す将来像（拠点の方向性）について

- 将来像の議論については、100年先など長期的に王子をどうしていきたいというところを押さえていただきたい。その上で、庁舎をきっかけにどこまでできるか、さらにその先どこまでいけるかを検討いただきたい。
- 「水と緑」は特徴的であり重要なキーワードでは。個性ある拠点をどのような拠点とするかは、位置としての北の拠点というだけでなくどういう拠点かの中身が重要である。
- 赤羽も北の拠点といえるし、北区以外でも北の拠点と言っている場所はある。北の拠点というよりも、王子にふさわしい方向性というのがあるのではないか。
- 賑わいというよりも落ち着いた、高齢者などにやさしい交通結節を活かしたまちになってほしい。
- 拠点については、この地域の強みと弱みを整理し、職住近接など具体的なキーワードを抽出した上で、基本方針など整理してみてはどうか。区が外部に対して打ち出していくときの戦略も考えて順番も含め整理いただきたい。
- 4つの基本方針について、内容は良いが順番に違和感がある。防災など課題の裏返しの項目よりも、可能性や強みに関連したものが上に来るのではないか。

検討におけるその他の視点について

- 障害者などユニバーサルデザインやバリアフリーの視点もぜひ取り入れ、世界一の水準を目指すなど方針にも関係づけてもらいたい。
- 路線バスについては、運行の効率性からは今の配置が良いが、利便性に課題がある。バスの効率性と乗客の利便性の両立を目指してほしい。
- 次回の都市基盤・開発検討部会は、大胆な案も含め出てくると予想されるが、議論が発散しないよう、それまでの間に、ある程度「ありえる案」にした上で案を提示いただきたい。

- **東京の北部地域における個性ある拠点として王子がどのようなまちを目指すか、他の拠点との差別化・連携などの視点を踏まえた将来像の議論が必要**
- **その上で、庁舎移転を契機としたまちづくりの方向性の議論が必要**

2. 第2回検討部会の報告

2-1 第2回検討部会の検討フレーム

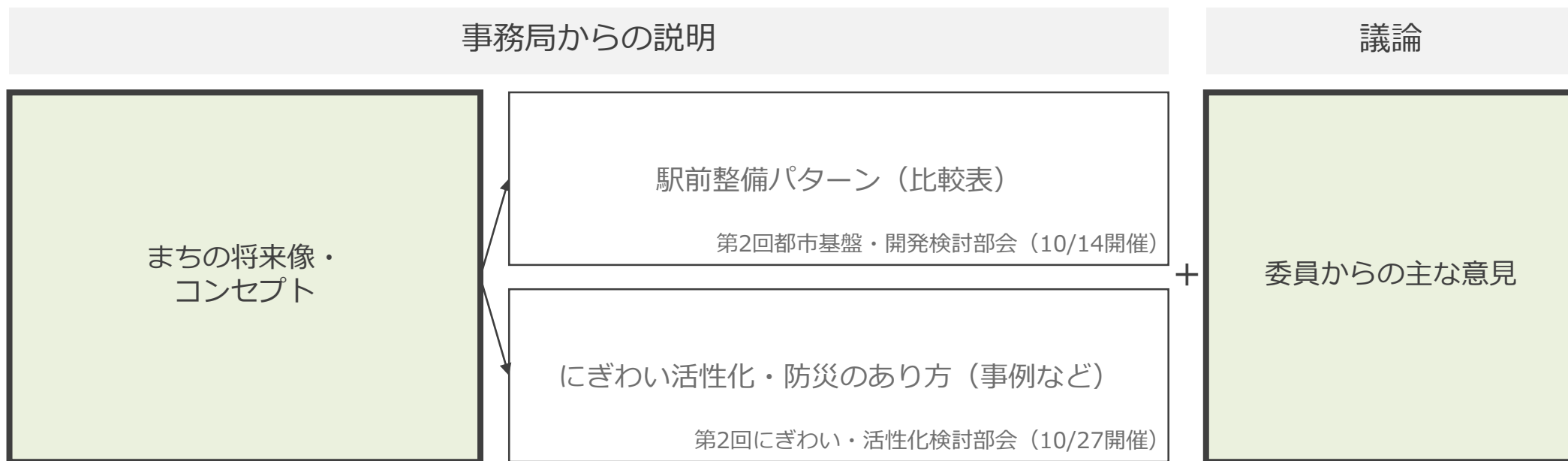
2-2 拠点の方向性について

2-3 個性ある拠点としての将来像について

2-4 将来像に向けたまちづくりの方向性

2-5 委員からの主な意見

2-1 第2回検討部会の検討フレーム

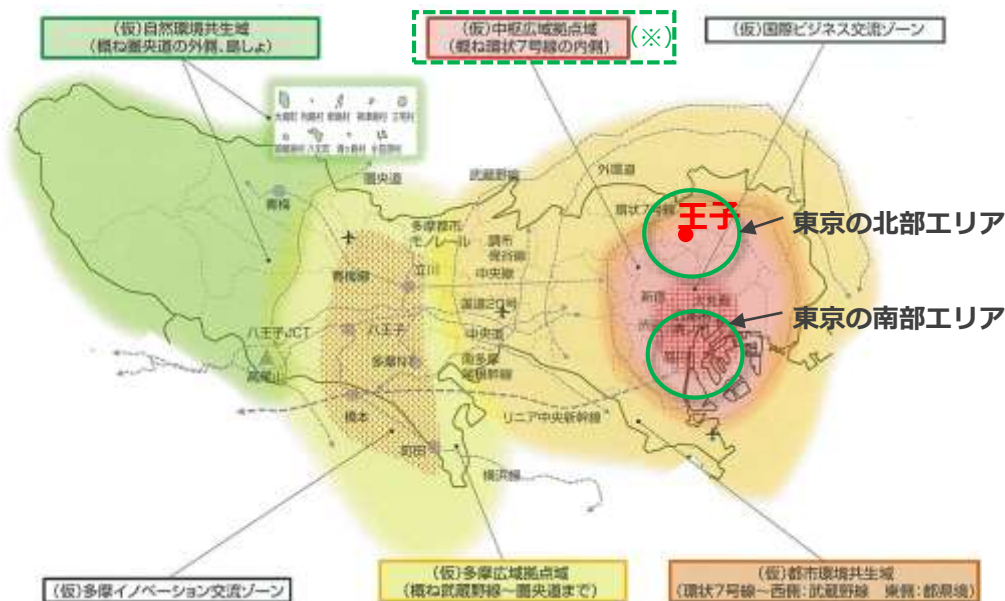


※ 本日検討内容を抜粋して紹介する部分

(1) 東京の新たな都市構造

東京の新たな都市構造形成の考え方

- より広域的に「交流・連携・挑戦」を促進する都市構造へ転換
- 従来の都心、副都心、新拠点、核都市といった「業務機能を重視した受け皿の育成」の視点から脱却し、「**地域の個性やポテンシャルを最大限発揮し、競い合いながら、新たな価値を創造する個性ある多様な拠点**」へ再構成



(※) 「中枢広域拠点域」の地域像：
国際的なビジネス・交流の拠点や芸術・文化など個性ある多様な拠点、複合的な中高密度の市街地が形成

東京都都市計画審議会「2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について 答申」(平成28年9月)より引用

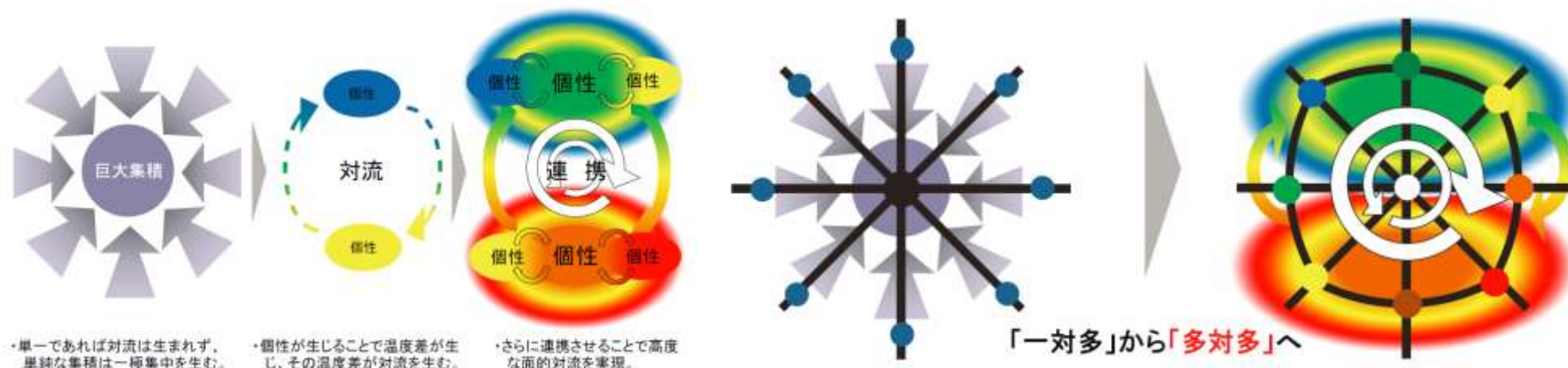
東京の新たな都市構造を踏まえつつ、東京の重心が南へ移動している傾向がある中で、「東京の北側がどうあるべきか」「その拠点のひとつとして王子は何を目指すのか」を論じていくことが重要

(2) 王子が目指すべき拠点のあり方に関する広域的視点からの検討 1 / 2

東京北部エリアにおける王子の位置づけ

個性ある拠点と「対流」の考え方

首都圏広域地方計画【国土交通省】（平成28年3月）



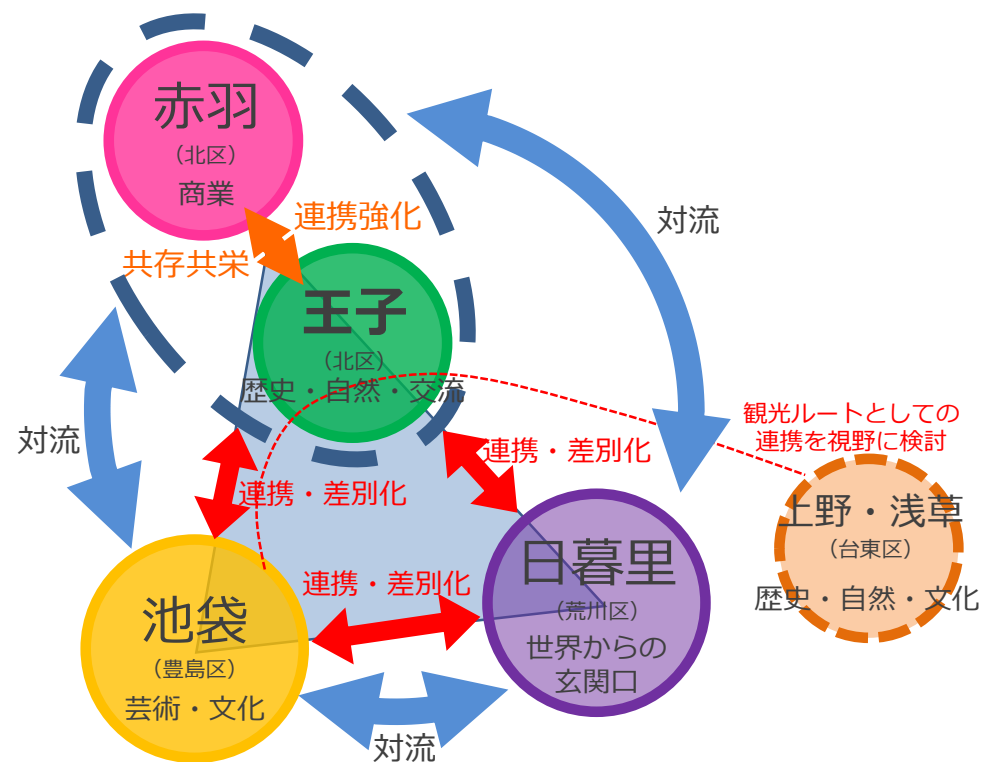
東京の北部エリアにおいては…

(2) 王子が目指すべき拠点のあり方に関する広域的視点からの検討 2 / 2

東京北部エリアにおける王子の位置づけ

東京の北部エリアにおいては…

- 王子地区周辺における他の拠点として、赤羽地区、池袋地区、日暮里地区が挙げられる。
- 王子地区と赤羽地区は、北区の拠点として一括りとし、連携強化・共存共栄を図る。
- 王子地区・赤羽地区、池袋地区、日暮里地区がトライアングルを組み、各拠点の持つ個性によって差別化・役割分担を図りながら連携していく。
- 差別化・役割分担と連携により、ヒト・モノ・コトの対流を起こし、北の拠点全体の価値向上に繋げる。



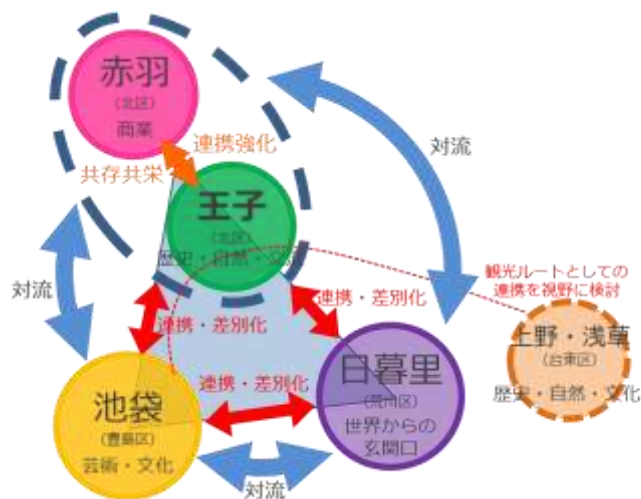
拠点としてのキーワード

- 他の個性ある拠点との役割分担・連携
- 王子の地域特性を踏まえた差別化

拠点の目指すべき関係性

- 共存共栄を目指し、王子と赤羽の連携強化
- 池袋や日暮里と個性によって差別化

(3) 周辺の拠点の将来像



連携・差別化

連携強化・共存共栄

池袋：地域の将来像

【「特色ある地域の将来像」東京都都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成26年12月）一部抜粋】

- 池袋駅周辺では、駅施設の機能更新と街区再編を進め、都市の一体性を高めることで商業機能の強化、エネルギー利用の効率化及び防災対応力の強化を図り、業務、文化、芸術、娯楽、情報発信などの機能が集積・連携した、国際性の高い、安全・安心でにぎわいと活力を備えた個性ある副都心を形成

王子：地域の将来像

※他の地区にはない王子ならではの特徴を際立たせた特色ある拠点としての方向性を目指す。

連携・差別化

連携・差別化

日暮里：地域の将来像

【「特色ある地域の将来像」東京都都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成26年12月）】

- 充実した公共交通網や成田空港へのアクセスの利便性、日暮里台地部における歴史・文化資源のある地域特性をいかし、国内外から人々が集う、商業・業務・居住機能が集積したにぎわいのある拠点を形成

赤羽：地域の将来像

【「特色ある地域の将来像」東京都都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成26年12月）】

- 交通結節点としての機能を発揮し、駅周辺のまちづくりにより、商業・業務・教育・文化機能などが集積した、利便性の高い賑わいのある拠点を形成
- 周辺の大規模団地の建替えに当たっては、団地内と周辺的环境に配慮しつつ、土地の有効活用と高度利用が進められるとともに、教育・文化施設、生活利便施設、住宅などの立地が誘導され、良好な住環境を形成
- 木造住宅密集地域において、特定整備路線の整備による延焼遮断帯、避難・救援路の形成や不燃化特区による建物の不燃化の促進により、防災性の高いまちを形成

【北区都市計画マスタープラン2010（平成22年7月）】

- 赤羽駅は、埼玉方面から東京都心部や副都心方面への「東京の北の玄関口」です。また区内外各所からのバスルートも集中し、「交通の結節点」となっています。
- 北区内で最も大きな商圈を有している赤羽駅周辺は、こうした立地条件を活かして、地域商業との調和・共存を図りつつ、広域商業や業務機能、文化教育機能を維持・強化し、北区の商業中心地として、整備を図ります。

2-3 個性ある拠点としての将来像について

(1) 王子の地域別特性の把握



(2) 王子の特徴や優位性・課題の整理 1 / 3

王子の優位性

【交通機能】

- 他には類を見ない多様な交通モード
 - JR : 都心部からのアクセスが良い（東京から15分）
空港からのアクセスが良い（成田（日暮里経由）、羽田（浜松町経由））、埼玉方面など北側に広い駅勢圏を有する
 - メトロ : 都心部からのアクセスが良い（永田町から20分、六本木から23分）
 - 路線バス : 利用者が多く、特に自宅から駅までの利用者の割合が他地区と比較して多い（下記参照）
 - 高速バス : 首都高速中央環状線の出入口に近接（羽田空港、関西方面、東北方面）
 - 都電 : 生活の足、観光ルートとして利用されている
- 日常的に多く利用されている路線バス
 - ・ 家から駅までの利用者（アクセス端末利用者）数は、23区内で第2位である。後背地に広範囲の居住エリアを抱え、王子駅の潜在的な利用人口は北区全体の人口を上回る。

王子の課題

【交通機能】

- 自動車交通の空間が大きく、歩行者空間が不足である
- 狭い駅前広場にバス停が収まらず分散している
- 乗換動線が錯綜しており視覚的にも分かりづらい
- 幹線道路が乗換動線を分断しており、特に高齢者、身障者、子供連れ等の移動が困難である
- 鉄道をはさんだ東西のつながりが弱い
- 駅周辺において自転車駐車場が不足している

(2) 王子の特徴や優位性・課題の整理 2 / 3

王子の優位性

【土地利用】

- 北区庁舎をはじめとし、主要な行政機関、公共施設が多く立地している
- 史跡、寺社、歴史的建造物、博物館などの観光資源が多く点在している
- 区内屈指の商業地・赤羽と近接し相乗効果が期待できる
- 交通の利便性が良く、都心に比べ相対的に安い地価、近隣に大学が立地、既存の産業集積等により起業ニーズが高い
- 業務エリアと居住エリアが近接している

王子の課題

【土地利用】

- 駅の乗り換えや目的地へ行くだけの利用者が多く、まちのにぎわいが不足している
 - ・ 乗降客数と比較した商業売上が極めて低い
- 駅周辺に人々が滞留・交流する公共空間が不足している
- 駅直近に機能更新が進まず低利用の街区があり、駅前の立地を生かせていない
- 王子の顔であった工場の移転等により製造業が減少している
- 宿泊施設がない。宿泊施設は都心を中心に立地しており東京の北部地域に不足している
- 庁舎防災機能が分散している
- 駅直近に火災危険度の高い木造密集地域がある

(2) 王子の特徴や優位性・課題の整理 3 / 3

王子の優位性

【歴史】

- 江戸時代に庶民に開放された飛鳥山、王子神社、王子稲荷神社などの歴史資源がある
- 地域によって受け継がれる伝統文化（王子田楽、凧市、熊手市、狐の行列等）がある
- 洋紙発祥の地であり、紙幣を初めとする印刷産業、軍事産業等が街の発展に寄与している

【自然・環境】

- 日本の季節を感じられる豊かな自然がある
 - ・ 庶民に開放された花見発祥の地の飛鳥山、水遊びのできる音無親水公園、紅葉の美しい名主の滝公園、武蔵野の路など四季を通じて散策ができる石神井川沿い
- 駅の直近に水と緑のネットワークがある

王子の課題

【歴史】

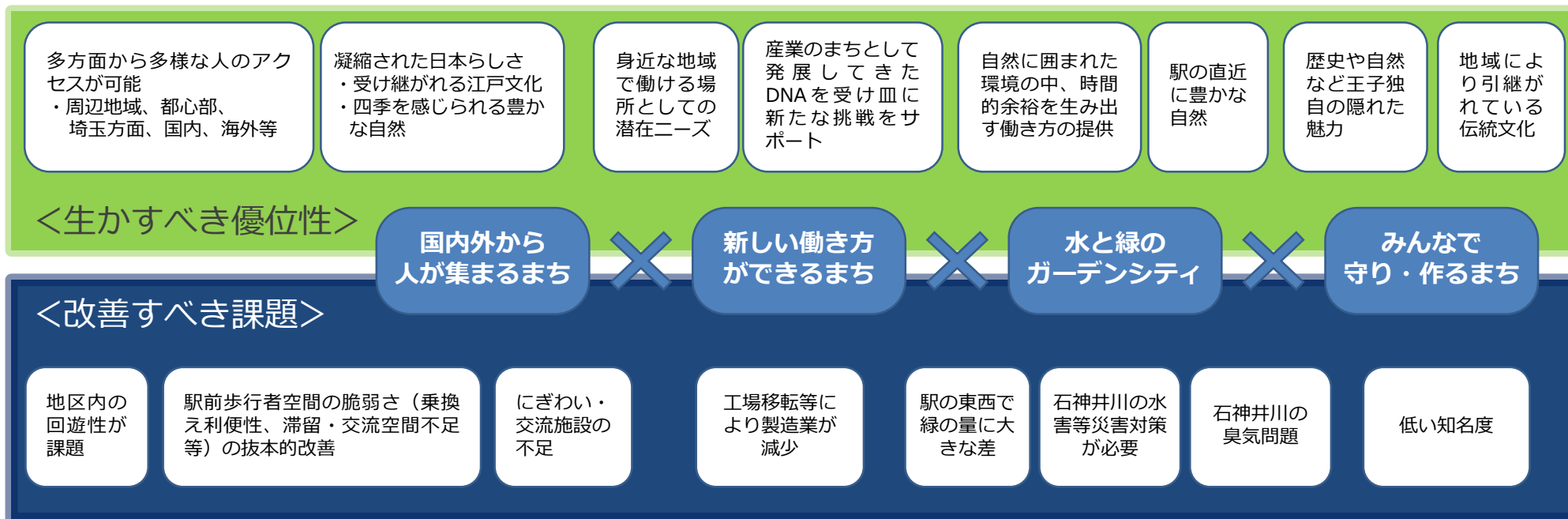
- 多くの歴史資源や受け継がれている伝統文化があるにもかかわらず、知名度が低い

【自然・環境】

- 駅の東西で緑の量に大きな差がある
- 駅周辺の地形的制約から回遊性が乏しい
- 石神井川の氾濫等により浸水被害を受けている
- 石神井川に臭気問題がある

2-3 個性ある拠点としての将来像について

(3) 王子の特徴（優位性・課題）を踏まえた将来像の検討



コンセプト（仮）

～ 飛鳥山からつながる「東京の北の拠点」王子 ～

飛鳥山に抱かれ、交流や産業の中心地となってきた歴史を生かしながら、区庁舎の移転をきっかけとして、東京の北部における個性ある拠点としての価値向上をめざすまちづくりを進めます。



将来像をイメージさせるコンセプトを今回検討

2-4 将来像に向けたまちづくりの方向性

(1) これまで提示してきたまちづくりの方向性に新たな視点を追加 1 / 2

これまで提示してきたまちづくりの方向性
(第2回検討会資料から抜粋)

○災害に強いまち

- ・ 北区地域防災計画における取組みの推進や、庁舎整備にあわせた防災拠点機能の構築
- ・ 調整池の整備検討を東京都に求めていくなど地域の水害対策の推進
- ・ 堀船地区周辺に広がる木造住宅密集地域における避難経路・緊急車両の通行路の確保等災害に強いまちづくりの推進

○歴史や文化、自然を感じるまち

- ・ 花見文化の発祥地・飛鳥山など、多様な人々が訪れ交流する場としてのブランド力の強化
- ・ 洋紙・印刷業などが王子の発展を支えた歴史や、現在も進化・発展を続ける工場など、産業のまちとしての価値の向上
- ・ 点在する資源を連携し、様々な都市活動の場として利活用する等、個性ある文化都市としての積極的な魅力発信

○にぎわいと活気のあるまち

- ・ 多様な人たちが集まり活躍できる「東京の北の拠点」にふさわしい国際都市の創出
- ・ 機能更新の機会を捉え、土地の高度利用を図りつつ、産業、芸術、歴史・文化、宿泊等の質の高い都市機能の集積を誘導
- ・ 庁舎の移転を契機とし、豊かで魅力ある公共的空間の形成・充実と街の回遊性の向上
- ・ 産学公や町会自治会の連携・協働による継続的なまちづくり推進体制の確立と、大学誘致などによる交流拠点の創出

○交通拠点機能の充実したまち

- ・ 新たな都市機能を支える駅前空間の創出、および周辺街区の機能更新とあわせた駅前広場の再編・拡充
- ・ 主要な交通結節点として充実した公共交通の利点をさらに活かすための、乗換え利便性、まちや施設へのアクセス性や快適性の改善及び向上
- ・ 首都高速道路中央環状線の出入口に近接する立地を活かした、高速バス等の発着点としての機能強化

- ・ 広域的視点での隣接地域との差別化 (P10-12)
- ・ 地区別の特長 (P13)
- ・ 王子の優位性・課題 (P14-16)

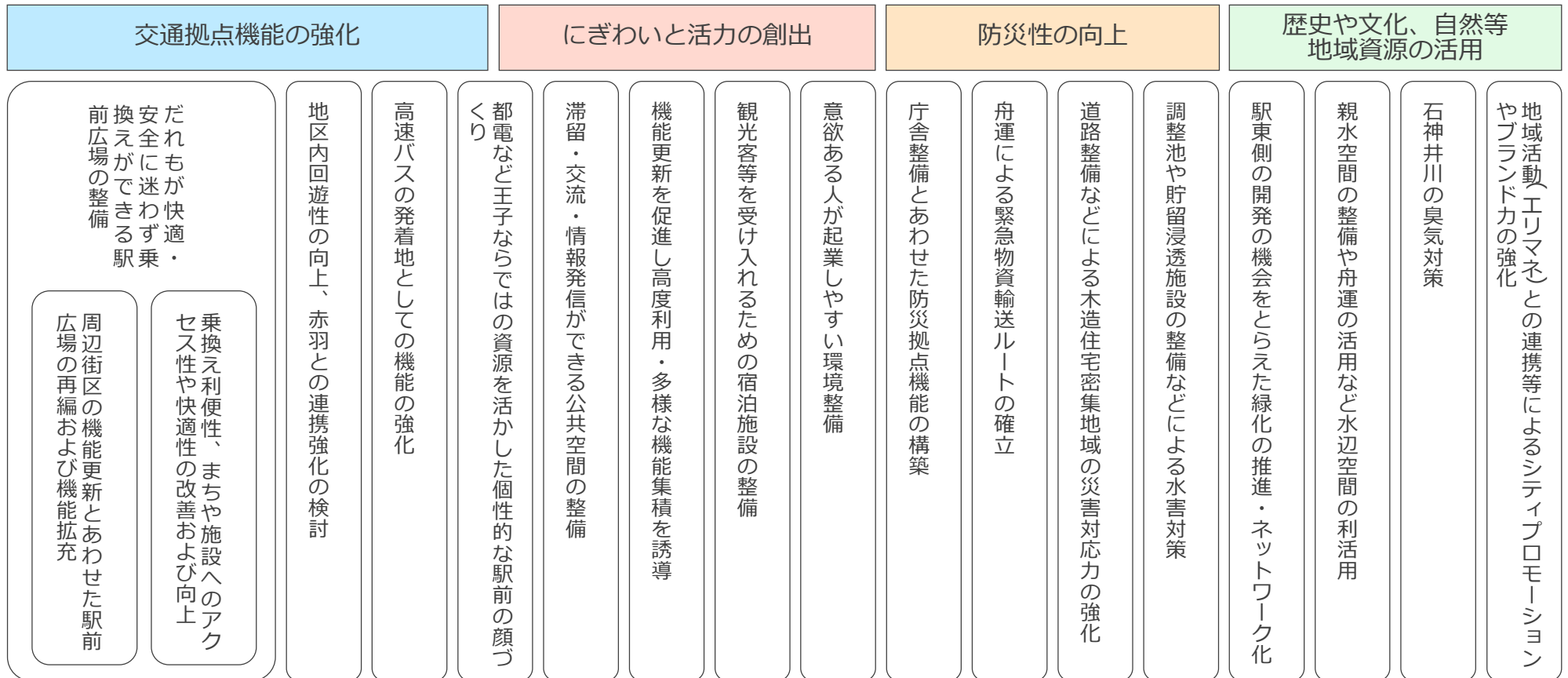
将来像 (P17)

新たなまちづくりの方向性 (今回提示)

新たな視点の追加

(1) これまで提示してきたまちづくりの方向性に新たな視点を追加 2 / 2

<新たなまちづくりの方向性>



八王子駅前(八王子)



コミュニティサイクル(千代田区)



トラム駅(ストラスブール)



グランドプラザ(富山)



柏の葉キャンパス駅前(柏)



オープンインベーションラボ(柏)



長岡市役所プラザ(長岡)



道路整備のイメージ(西ヶ原地区)



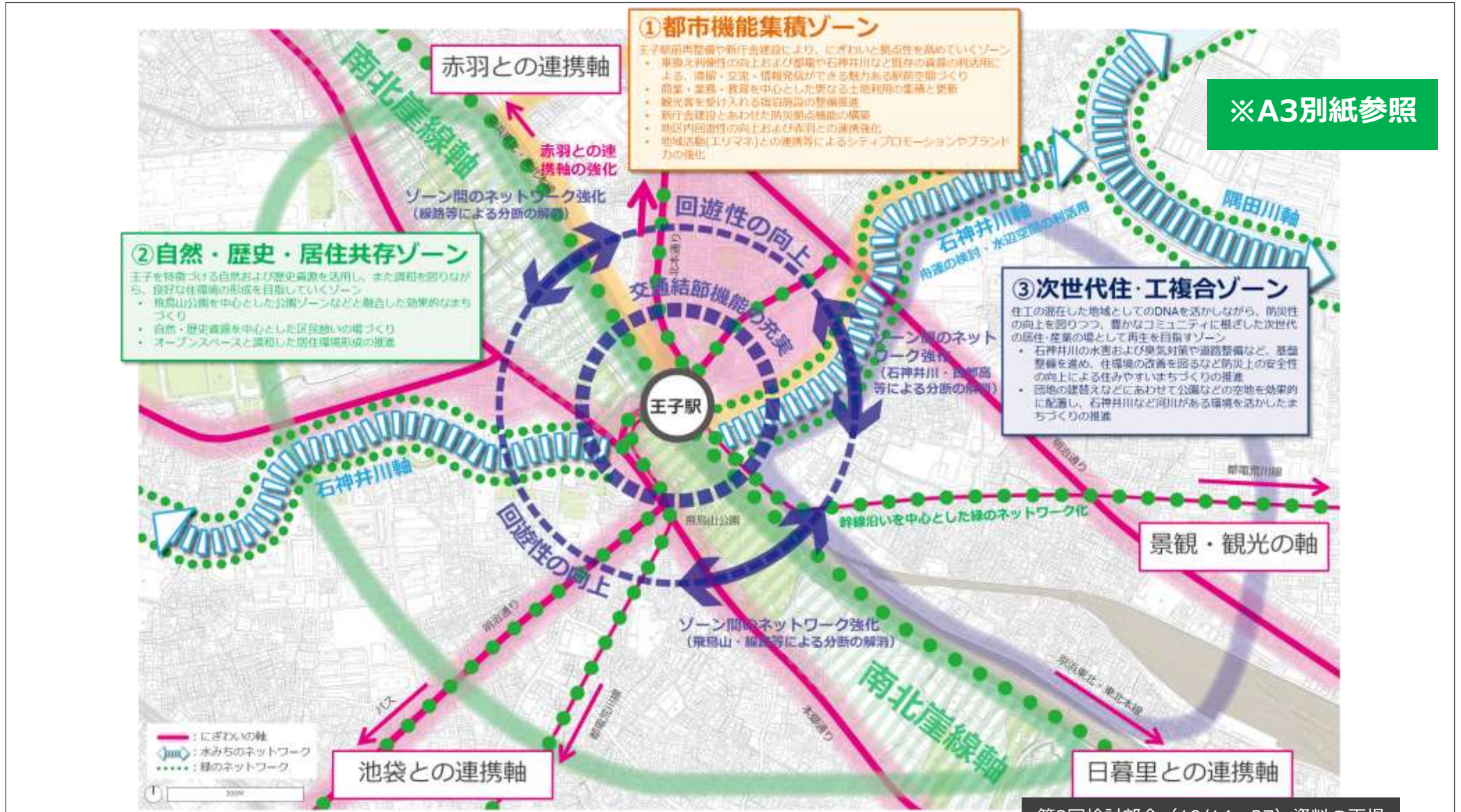
豊島区庁舎付近(豊島区)



創成川(札幌)

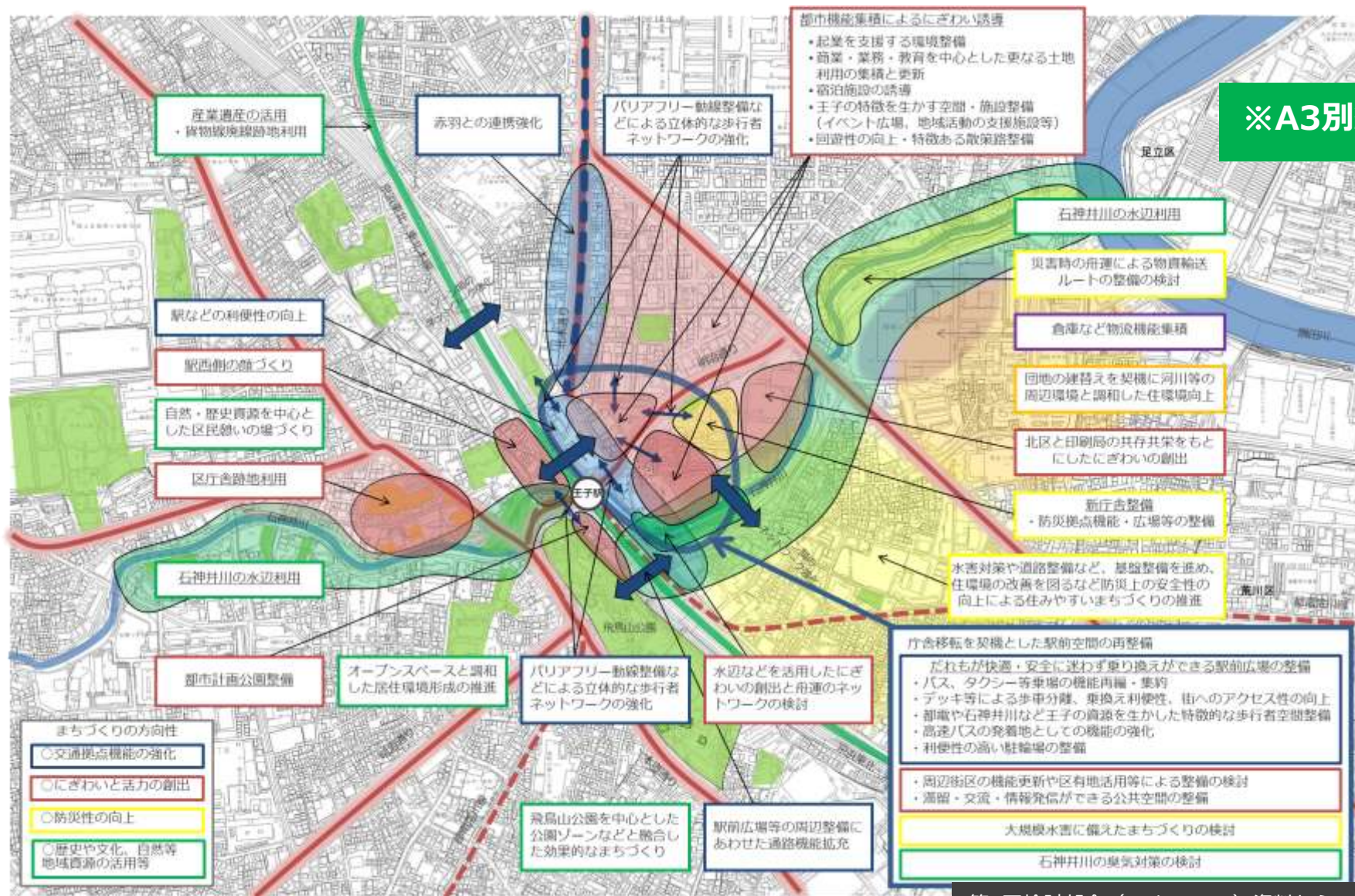
2-4 将来像に向けたまちづくりの方向性

(2) 王子駅を中心としたまちづくりの考え方



2-4 将来像に向けたまちづくりの方向性

(3) 王子駅を中心としたまちづくりへの展開イメージ図



2-5 委員からの主な意見

(1) 第2回都市基盤・開発検討部会（10/14開催）

コンセプトについて

- ・「水」ということばが鍵となる印象を受ける。
- ・歴史や自然、交通だけでなく、交流という要素が込められたコンセプトが出せるとよい。

まちづくりの方向性について

- ・赤羽との連携については、自転車レーン整備の検討など踏み込んだ書き方ができないか。
- ・回遊性を高めたいエリアは、歩行者中心の交通体系にシフトするというのが、今の時代に合った考え方ではないか。
- ・エリマネなど整備後の官民連携だけでなく、整備段階において官民連携で動いていくような体制づくりができれば良い。

まちづくりの展開図（記載内容や図の表現）について

- ・都市機能集積によるにぎわい誘導を図っていくエリアが小さい印象を受ける。
- ・踏み込んだ内容を書けないのであれば、「〇〇について検討」という言い方の工夫もある。
- ・駅の東側とあわせ、西側についても駅前顔づくりをしていくべきではないか。
- ・飛鳥山と、駅西側音無親水公園付近のつながりが決定的に弱い。図中の矢印での表現等も含めて検討が必要ではないか。

目標とする駅前空間像について

- ・都電を活用した駅前の空間整備も、富山など先行事例を参照するなどしながら、具体的な方向性を示していただきたい。
- ・駅前の再開発に関しては、具体的な用途をイメージした機能集積の像を示すべきではないか。
- ・快適な空間の整備は、デッキ上ではなく、あくまでも地上レベルで展開していくことが基本ではないか。

ランドデザインの最終とりまとめイメージについて

- ・ランドデザインの成果品としては、まちづくりへの展開イメージ図に事例などで方向性を加えるぐらいではないか。
- ・都電活用の良い事例など、整備の目標像を示すことができる材料は、積極的に資料に載せていくと良い。

(2) 第2回にぎわい・活性化検討部会（10/27開催）

コンセプトについて

- ・ 飛鳥山は拠点にはならない。王子駅を中心とした拠点を考えてもらいたい。
- ・ コンセプトなので、多義的であってもよい。

まちづくりの方向性について

- ・ 地区内回遊性の向上に関する提案の内容が、コミュニティサイクルなどソフト面のことであるならば、交通拠点でなく
にぎわい活力の方に分類されるのではないか。
- ・ 建物の機能更新に関する記述も、まちの発展につながる用途の縛りを設けるなどの方向性も意識してほしい。
- ・ 宿泊施設をつくるだけでなく、その先どのような方策を講じていくのか重要であるが、どうやって賑わいを生み出して
いくかの具体策の記述が見えない。
- ・ 起業しやすい環境整備については、ここに投資して大丈夫だという安心感を示すことが、GDの役目のひとつである。
- ・ 庁舎との複合を検討する用途に関しては、どのように活用するかをイメージして検討していただきたい。
- ・ 賑わいといっても、石神井川の南北で人の流れが異なっているため、まずは道路整備の念押しが必要である。
- ・ エリアやゾーン一体で考えると良いと思うが、さまざまな商工団体などからの意見を、区も積極的に検討して取り込んで
いただけるような体制づくりをお願いしたい。

まちづくりの展開図（記載内容や図の表現）について

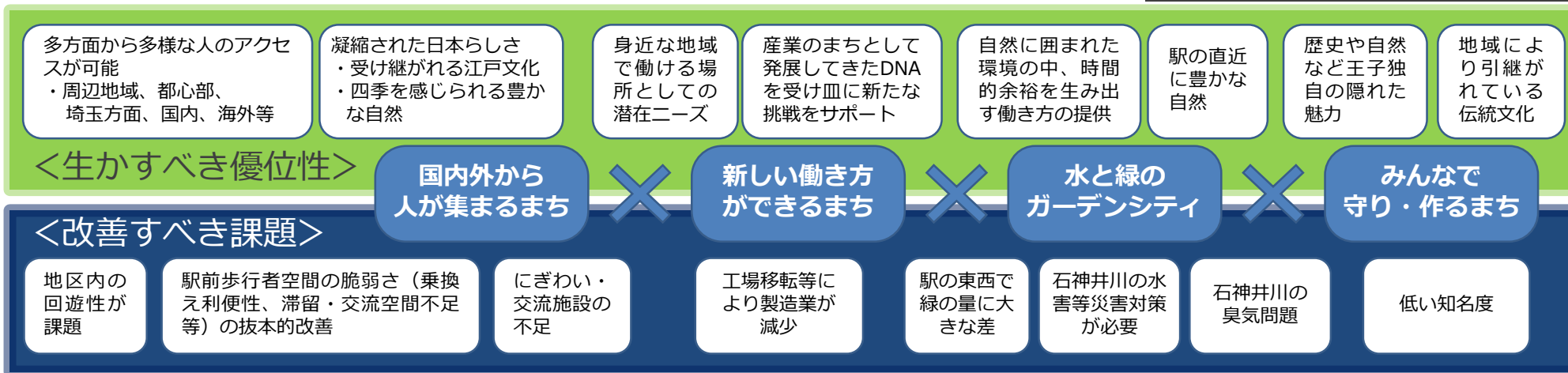
- ・ 現庁舎移転後の跡地について何も記載がないことに違和感を感じる。
- ・ 王子のまちにとって、飛鳥山から音無川、現庁舎までの流れは非常に重要である。移転候補地は印刷局の土地であるが、現庁舎敷地は区の土地であるため、今の時点から具体的な提案をしていくべきではないか。
- ・ 都電沿いを景観・観光の軸としていることに違和感を感じる。
- ・ まちづくりの方向性に書いていないことは施策としてやらないので、無理に図で示す必要はないのではないか。

3. まちづくりコンセプト

※本日概ね方向性の合意を得たい内容

3-1 まちづくりコンセプト

第2回検討部会（10/14・27）資料の再掲



まちづくりコンセプト（案）

東京の北の交流拠点 水と緑豊かな王子

●旧案※第2回検討会（16/07/25）時点

飛鳥山からつながる「東京の北の拠点」王子

これまでに出た委員からの主な意見（第2回検討会＋第2回検討部会）

- ・ 「水と緑」は特徴的であり重要なキーワード
- ・ 位置としての北の拠点というだけでなく、**どういう拠点かの中身**が重要
- ・ 歴史や自然、交通だけでなく、**交流という要素**が込められたコンセプトが出せるとよい
- ・ コンセプトなので、**多義的**であってもよい

4. グランドデザインとりまとめの方向性

※本日概ね方向性の合意を得たい内容

4-1 グランドデザインの目次構成案

4-2 次年度以降の検討内容案

4-1 グランドデザインの目次構成案

これまでの検討会での議論を踏まえ、グランドデザインの最終とりまとめイメージを修正

■これまでの目次案 (第2回検討会までで提示)

第1章 はじめに
第2章 現況と課題
第3章 コンセプトと基本方針
第4章 まちづくりの基本的な考え方
第5章 具体方策 (アクションプラン)
第6章 実現に向けて

■修正後の目次案 (これまでの議論等を踏まえ今回新たに提示)

第1章 はじめに	⇒GD策定の背景・目的、位置づけ・役割、先行検討区域、目標とする年次、等を整理				
第2章 現況と課題	⇒王子の特徴（優位性・課題）、拠点の考え方、等を整理				
第3章 将来像とコンセプト					
第4章 新たなまちづくりの方向性とまちづくりへの展開イメージ					
第5章 実現に向けて	⇒GD策定後の進め方や次年度以降の検討内容、などを整理				

※図等の表現については、今後とりまとめに向けて調整していくものとする。

- 当初予定の、具体方策（拠点地区の具体的な整備方針）などは、次年度以降の先送り
- まちの将来像やまちづくりの方向性などを中心に、グランドデザインとしてとりまとめ

4-2 次年度以降の検討内容案

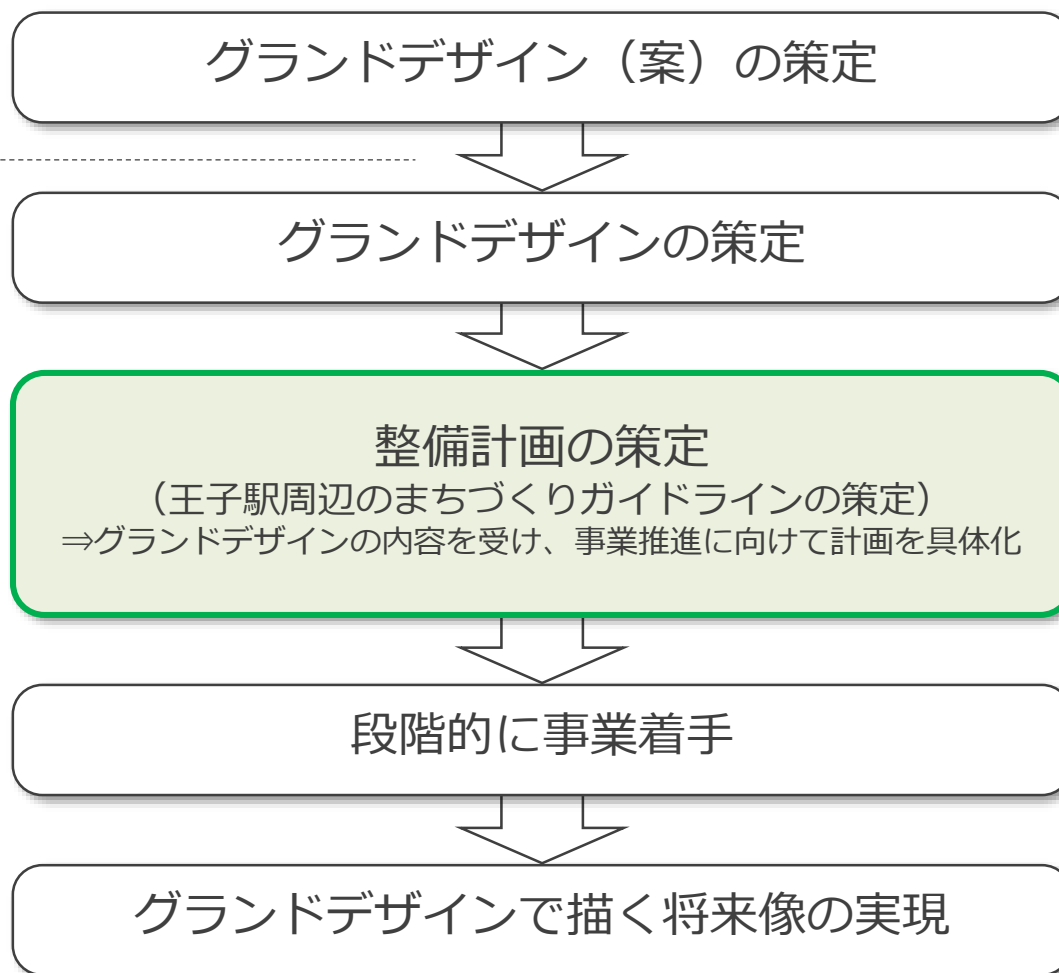
基盤施設の計画案や事業手法などは次年度以降で検討
(グランドデザインの中では、「第5章 実現に向けて」で記載を予定)

◆グランドデザイン策定後の進め方（案）

H28年度



H29年度
以降



5. グランドデザイン策定までのスケジュール

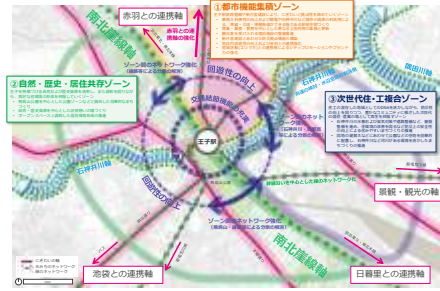
5-1 第3回検討部会における検討内容

5-2 グランドデザイン策定までのスケジュール

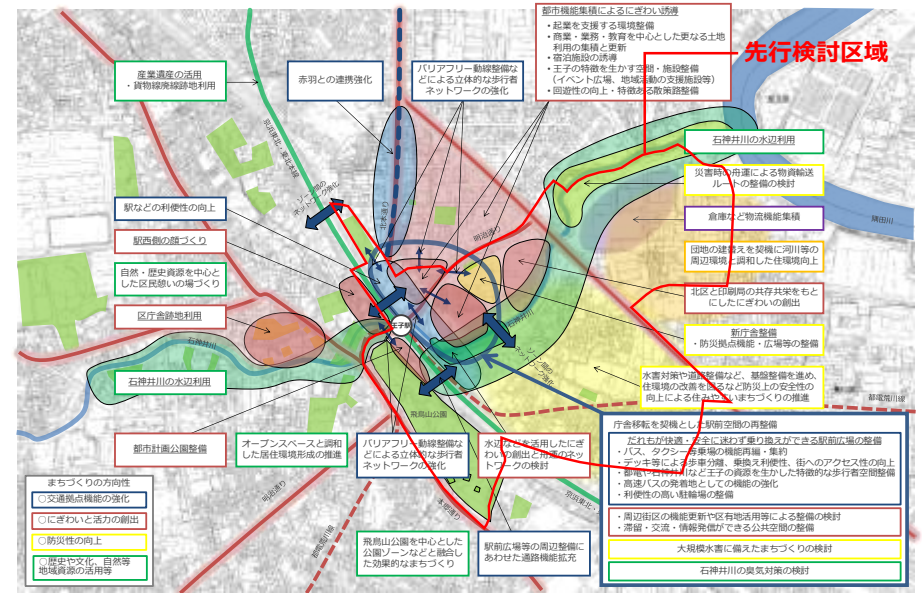
5-1 第3回検討部会における検討内容

まちづくりの方向性

交通拠点機能の強化 安全かつ快適なまちづくりを実現する。まちづくりの根幹をなす部分。	にぎわいと活力の創出 都市機能集積によるにぎわいの創出。まちづくりの根幹をなす部分。	防災性の向上 防災拠点機能の強化。まちづくりの根幹をなす部分。	歴史や文化、自然等 地域資源の活用等 歴史や文化、自然等地域資源の活用。まちづくりの根幹をなす部分。
--	--	---	--



まちづくりへの展開イメージ



ランドデザイン (GD) の根幹をなす部分

※図等の表現については、今後とりまとめに向けて調整していくものとする。

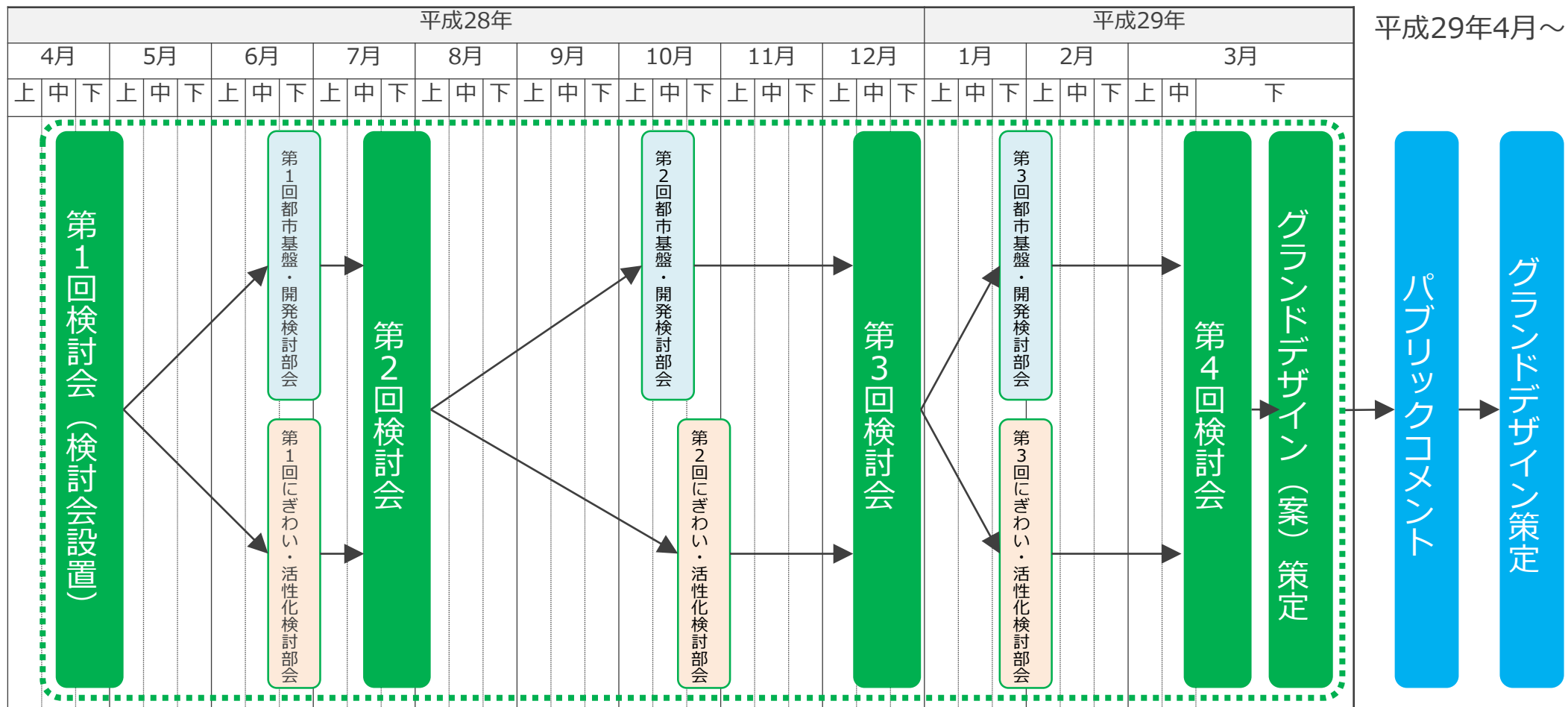
第3回検討部会では、本日の議論および合意事項を踏まえ、上記GDの根幹をなす部分に対して、

第3回都市基盤・開発検討部会
【テーマ】まちづくりの方向性・展開イメージについて、基盤整備に関わる項目を中心に検討

第3回にぎわい・活性化検討部会
【テーマ】まちづくりの方向性・展開イメージについて、にぎわい・防災に関わる項目を中心に検討

上記の検討テーマを中心とした検討を予定

5-2 グランドデザイン策定までのスケジュール



【検討会・部会】
 平成29年3月末に最終の第4回検討会を開催し、グランドデザイン案の策定を予定

【グランドデザイン】
 パブリックコメントを経て平成29年夏以降の策定を予定

※上記スケジュールは現時点での想定であり、今後変更する可能性があります。